発行部門	環境ニュース	2006年12月28日(木)発行
ISO事務局		第二十七号(1ページ)

＊ 環境クイズ ＊　　環境問題

問題1
水俣病を取り続けた著名な外国人カメラマンの名は？
①ロバート・キャパ　②ユージン・スミス　③ロバート・ローシェンバーグ

問題2
鳥インフルエンザウイルスは何型？
①A型　②B型　③C型

問題3
環境税(炭素税)を導入していない国は？
①スウェーデン　②アメリカ　③ドイツ

問題4
現在日本の人口は世界で何番目？
①5番目　②9番目　③13番目

問題5
『環境基本法』に決められた『環境の日』は何日？
①3月6日　②6月5日　③10月10日

問題6
地球に占める海の割合は？
①50%　②70%　③80%

問題7
次のうち、土壌汚染の原因となる有害物質ではないものはどれか？
①ベンゼン　②カドミウム　③トリハロメタン

問題8
地下鉄の車内は何デシベル？
①30デシベル　②50デシベル　③80デシベル

問題9
次の中で、『少しきたない水』に棲む川の生き物は？
①カワゲラ　②サワガニ　③ゲンジボタル

問題10
世界各地で毎年どれくらいの面積が砂漠化で耕作不能になっているのだろう。
①琵琶湖ぐらい　②四国と九州を合わせた面積ぐらい　③日本の面積の2倍ぐらい

＊　循環型社会　ゼロエミッション　　環境性能もブランド　＊

かって東海道の宿場町として栄えた三重県亀山市は今、日本のハイテク産業を支える一大産業集積地として生まれ変わりました。その中心に位置するのは、世界の液晶テレビをリードするシャープの亀山工場。液晶パネルからテレビまでを一貫生産するこの工場で作られる製品は『亀山モデル』と呼ばれ、世界のブランドの地位を確立しています。

亀山工場の液晶テレビがブランド力を持ったのは、製品の性能や品質が評価されただけではない。工場自体が周辺環境への負荷を極力抑えた世界最先端の環境性能を誇っているからです。

ここで特に目を引くのが、浄水場を思わせる浄水システムです。この工場の製造工程から排出される廃水は一日当たり2万8300トン。廃水の性質に合わせ、バクテリアによる生物処理や凝集・沈殿等の化学処理を施して不純物のない水に再生し、再び製造工程で使用しています。

液晶パネルの製造工程では大量の水を必要としますが、内陸の亀山市では水が確保しにくい環境にありました。製造工程での廃水を利用することで、亀山は液晶工場の適地に生まれ変わりました。

工場からの廃棄物の排出を無くし、最終埋め立て処分をゼロにする取組みは『ゼロエミッション』と呼ばれています。今では企業の生産活動の目標に位置付けられるようになってきました。キリンビールも『ゼロエミッション』に取組み、平成6年にビール業界で初めてゼロエミッションを達成しています。

もともと、ビール工場はリサイクルの優等生です。キリンビールの横浜工場で年間約4万トンに達する廃棄物の大半は麦芽の仕込み糟(カス)ですが、飼料としてのニーズが高く、近隣の畜産農家に引き取られていました。ビンや缶、たる(かす)なども回収され、再利用する仕組みが整っていました。しかし、材料を運ぶ際の梱包材などのプラスチックス類は埋め立て処分をしていました。

その処理を実現したのは最新設備でも先端技術でもない、徹底した分別作業です。

プラスチックス類をリサイクルする専門業者の要求に応え、硬質樹脂や軟質樹脂、塩ビ、発砲スチロールなど11項目に分別し、一部は運搬用のパレットやベンチなどに生まれ変わり、それでも再資源化できないものは固形燃料として全て使い切る仕組みを作り上げ、平成10年に全国11工場でゼロエミッションを達成しました。

ゼロミッションが目指すのは、廃棄物の排出を当然視してきた産業モデルの転換です。環境負荷を最小限に抑え、資源をいかに効率活用するかが最大のテーマになっています。当たり前にも思えるこうした活動を国連大学が提唱したのは平成6年。まだ10年あまりの歴史しかありません。

しかし、この間に消費者の環境に関する意識は、昔と比較して非常に高くなっています。

日本経団連によりますと、バブル期の平成2年度に5896万トンに達した(主要31業種)の産業廃棄物最終処分量は、平成16年度には954万トンと大幅に減少しています。これは企業が再資源化を進めた成果といえます。ゼロエミッションなどの環境対策は企業に多額のコスト負担を強いることになりますが、環境対策に消極的な企業は生き残るのが難しい時代を迎えていると思います。最終処分量の大幅な減少は、企業自身が何よりもそのことを感じている証しと思われます。

＊　REACH規制案、欧州議会が可決　＊

欧州議会は、約3万種類の化学物質について、安全情報の評価、登録などを義務付けるREACH規制案を可決しました。2007年6月から施行されます。採決された案では、発ガン性や突然変異性などの懸念の高い物質の認可について、適切な管理と代替計画を示せば認可され、その代替期間については『5年以内』ではなくケースバイケースで柔軟に対応するとしている。

一定の要件に該当する成型品サプライヤーも情報提供の義務を負う点などが特徴。

これに対し、経済産業省は、サプライチェーン全体で含有化学物質の情報管理を進めるアーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)の支援強化などで国内産業界の対応を促進する方針。

＊ 低燃費の新型『ミラ』　ダイハツ　＊

ダイハツ工業は12月18日、軽自動車『ミラ』をフルモデルチェンジして発売した。上位モデルではガソリン車トップの低燃費を実現しており、経済性や環境への配慮を更に充実させた。

新型ミラは前輪と後輪の間隔を従来より10センチ広げるとともに、エンジンルームを小さくすることで軽自動車としては最大級の室内幅を実現。一方で高さ1．53メートルにとどめており、一般的な立体駐車場に入れる事ができる。

燃費は新型エンジンや無段変速機(CVT)(＊1)の採用で大きく向上。停止すると自動的にエンジンがストップする装備をつけた上位モデルは、燃料1リットルで27キロ走行できる。

価格はミラが87万1500～118万6500円。新設定のミラカスタムは110万2500～154万8750円。

又、ダイハツは平成19年の世界販売台数計画を前年比5．4%増の100万2000台にすると発表。トヨタ自動車向けを含めた世界生産台数は同1．3%増の136万2000台を目指すとしている。

＊1無段変速機(CVT)：歯車を用いず、摩擦に拠って変速比を連続的に変化させる動力伝達機構。

＊　三洋電機　太陽電池増産へ　190億円投資　＊

三洋電機は12月19日、欧米などでの太陽電池需要の伸びに対応する為、約190億円を投じて二色の浜工場(大阪府貝塚市)と子会社の島根三洋電機(島根県雲南市)の設備を増強し、年間生産能力を平成20年度に現在の2倍以上となる350メガ(メガは100万)ワットに引き上げると発表。『平成22年度には600メガワット以上を目指す』として、更に能力を引き上げる計画をしている。

太陽電池は、太陽光エネルギーを電気に変える太陽光発電に使われる。世界的な環境意識の高まりを背景に需要が伸び、メーカー各社が生産能力増強を進めている。

＊　絶滅危惧種　200種に　鳥類のシマアオジなど追加　＊

絶滅の恐れのある日本の野生生物を示す『レッドリスト』の見直しを進めている環境省は、鳥類、爬虫類、両生類、無脊椎動物の新しいリストをまとめた。旧リストに比べ、絶滅危惧種は154種から200種に増えた。

鳥類ではシマアオジやミズゴイ等が絶滅危惧種に加わった。危険度が上がったのは南西諸島に生息している生物が多く、爬虫類では絶滅危惧種31種のうち、30種が南西諸島の生息種だった。

＊　環境クイズ　答え　＊

問題1　答え②
解説:ユージン・スミスは。1961年来日。その後水俣のチッソの水銀汚染問題で、胎児性水俣病の患者たちを撮り続け、世界に水俣病の悲劇を知らせた。

問題2　答え①
解説:インフルエンザは原因となっているウイルスの抗原性の違いからA型、B型、C型に大きく分類される。このうち大流行をする型にはA型が多い。鳥インフルエンザウイルスもA型だ。

問題3　答え②
解説:アメリカは京都議定書への調印は行わず、環境税の導入も検討されていない。

問題4　答え②
解説:2004年日本の人口は1億2780万人で世界で9番目。1位は中国で約13億1330万人で世界人口の約20%、2位はインドで約10億8120万人(約17%)。3位アメリカ、4位インドネシア、5位ブラジル、6位パキスタン、7位バングラデシュ、8位ロシア、9位日本、10位ナイジェリア。現在ナイジェリアの人口は1億2710万人。近い将来日本は10番目になる見通し。

問題5　答え②
解説:『環境基本法　第10条』に、事業者及び国民の間に広く環境の保全について関心と理解を深め、積極的に活動する意欲を高めるために『環境の日は、6月5日とする』とある。

問題6　答え②
解説:地球の約7割は海によって占められている為、海洋汚染は地球そのものの問題といえる。

問題7　答え③
解説:ベンゼン、カドミウム、シアン化合物、水銀及びその化合物、ヒ素及びその化合物等が土壌汚染を招く有害物質の代表例。ちなみにトリハロエタンは水道水に含まれている物質。

問題8　答え③
解説:デシベルとは、音の強さを測定した国際的な単位で、数値が大きいほど音がうるさい。ちなみに郊外の深夜のささやき声が30デシベル、普通の会話が60デシベル、飛行機のエンジンの近くが120デシベル。

問題9　答え②
解説:カワゲラとゲンジボタルは『きれいな水』の指標生物、サワガニは『少しきたない水』の指標生物。

問題10　答え②
解説:1997年の国連砂漠化防止会議(UNCOD)では、世界各地で毎年6万平方キロメートルの土地が、砂漠化で失われていると報告された。これはほぼ四国と九州を合わせた面積に匹敵する。